

News Letter

小麦で地元貢献 ～地域になくなくてはならないプロジェクトへ～

かつて鳥取県内では小麦の栽培が盛んに行われていましたが、外国産におされ1970～2010年頃には県内生産はほぼゼロになっていました。

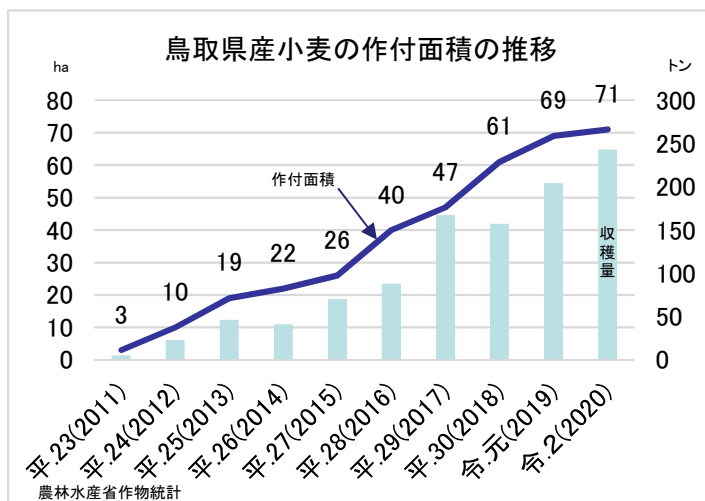
しかし、米子市のパン屋さん「麦ノ屋」代表取締役出井亘さんは、小麦を地元で作ることで地域への恩返しができないかと考え、知人の農家に試験栽培を依頼。1年目の2011年には2.7トンの小麦を収穫。その後、「大山こむぎプロジェクト」を立ち上げ、協力農家と共に作付け面積を増やしていきました。

収穫された小麦から、パンに適した品質の小麦粉が出来たものの、当初はなかなかほかのパン屋には広がりませんでした。しかし、大山こむぎの品質と魅力が次第に伝わり、今では年間を通して学校給食パンにも採用されています。

出井さんは「まずは国産の小麦粉、地元産の地粉があることが大事。無ければ選択肢に上がってこない。」として、大山こむぎがあることの意義を強調されました。



大山こむぎから作られたパン



2014年からは、米子市でコンサルタント業を営む笠谷信明さんが「大山こむぎプロジェクト」の事務局長となり、イベントの立案・実施、広報などを務め、大山こむぎの生産拡大と魅力発信を行っています。

笠谷さんは、「草だらけの耕作放棄地をどうにかしたい。」という思いから、知識はほとんどない状態であったものの17年9月、(株)山陰農業研究所を立ち上げ、麦の生産を始めたとのこと。

このプロジェクトは、現在8農家で小麦の栽培が行われています。新たに大山こむぎのECサイトを立ち上げ、パンケーキミックス等の新商品の取り扱いも行っています。笠谷さんは「この活動を進め、県内外を問わず多くの場で、鳥取県産の小麦を取り扱ってもらいたい。サステナブルな環境を作り、維持するためにも作付けを継続していきたい。」との目標を語られました。

トピックス

規格外野菜からつながるコミュニティ ～「Axis (アクシス) のやさい」が再開～

鳥取市にあるIT企業、株式会社アクシスは、昨年12月から冬期休業していた「Axis(アクシス)のやさい」を、令和3年5月9日に鳥取砂丘コナン空港等で再開しました。

アクシスはIT企業ですが、フードロス、SDGsが注目されるなか、地域の人と人とのつながりを大事にしたいと考え、規格外野菜の販売や、こども食堂への寄付を通じて、農家や地域の皆さんとのつながりを育んでいきたいとの社長の思いがきっかけでこの取組が始まりました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり一時休止していましたが、今月から再開し、5月23日が本年3回目の開催となりました。



鳥取砂丘コナン空港で販売を再開

農家の皆さんの中には、規格外野菜を商品として出荷することに当初は抵抗感がある方もいらっしゃったようですが、最終的には活動の趣旨や考え方に共感され、この取組が実現しました。

アクシスのスタッフの方は、「今後は県内の各企業と共に活動を広げていきたいと考えています。また、お客様に野菜の説明と併せて料理方法などの説明もできるように一層勉強していきたいです。」と話されていました。



再開後の販売は盛況

インフォメーション

～令和2年度 食料・農業・農村白書の公表～

食料・農業・農村白書は、食料・農業・農村基本法に基づき、政府が毎年、国会に報告しているものです。「令和2年度 食料・農業・農村白書」では、「新型コロナウイルス感染症による影響と対応」を特集として取り上げました。新型コロナウイルス感染症の拡大による食料消費面や農業生産・販売面での影響と新たな動き、地方への関心や働き方、交流に関する新たな動き等について記述しています。

「令和2年度 食料・農業・農村白書」は、以下のURLで御覧になれます。

詳細はこちら https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r2/index.html

編集：中国四国農政局 鳥取県拠点

〒680-0845 鳥取市富安2丁目89番地4 鳥取第1地方合同庁舎

TEL(0857)22-3131(代) FAX(0857)27-9672 <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>